



ロタウイルス予防接種について

ロタウイルス胃腸炎は、感染力が非常に強く、激しい下痢や嘔吐を起こします。入院や、合併症を起こすこともあります。生後、すぐに感染する場合もあるので、ワクチンの接種は、早い時期に完了させます。ロタウイルスワクチンは2種類あり、どちらも飲むタイプの生ワクチンです。

2種類とも、効果や安全性に差はありませんが、接種回数が異なります。特別な事情がない限り、途中で種類の変更はできませんので、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種します。どちらのワクチンも、ロタウイルス胃腸炎の発症を7～8割減らし、入院するような重症化は、そのほとんどが予防できます。

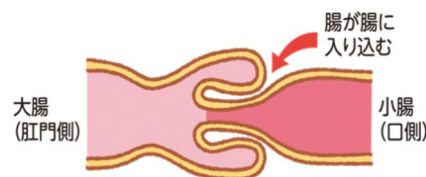
いずれのワクチンも1回目は標準的接種期間内【生後2か月から14週6日まで】に接種を完了してください。（生後15

ワクチン名	ロタリックス	ロタテック
接種時期	出生6週から24週	出生6週から32週
	※どちらのワクチンも、初回接種を、生後2か月から出生14週6日までにします。	
接種回数	2回接種（27日以上の間隔をあける）	3回接種（27日以上の間隔をあける）
接種後、特に注意する事	どちらのワクチンも、接種後（特に1～2週間）は腸重積症（後述）の症状に注意し、症状が見られた際には、すみやかに接種した医療機関を受診してください。	

●接種後は「腸重積症」に気をつけましょう

腸重積症とは、腸管に腸管が入り込み、腸が閉塞状態になることです（下図）。ワクチン接種後1～2週間くらいの間は、かかりやすくなると報告されています。また、ワクチンの接種にかかわらず、4～5か月齢ぐらいから月齢が上がるにつれて多くなる病気ですので、早めにワクチンを接種完了しましょう。以下のような症状がみられた場合は、すみやかに医療機関を受診してください。

- ☐ 泣いたり不機嫌になったりを繰り返す
- ☐ 嘔吐を繰り返す
- ☐ ぐったりして顔色が悪くなる
- ☐ 血便がでる



●次の人は、予防接種を受けることができません。

- (1) 明らかに発熱（通常37.5度以上）をしている人
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- (3) 当該疾病に係る予防接種の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある人
- (4) 腸重積症の既往歴があることが明らかな者
- (5) 先天性消化管障害を有する者（その治療が完了したものを除く）及び重症複合免疫不全症の所見が認められる者
- (6) その他、医師が不適当な状態と判断した人

●異なるワクチンの接種間隔について

令和2年10月1日以降の接種より、「異なる種類の注射生ワクチン（BCG・MR・水痘など）
どうしの接種間隔は27日以上の間隔をあけること」以外の制限がなくなりました。

ただし、同一の種類のワクチンの接種間隔（例：ロタウイルスワクチンの1回目と2回目は27日以上あける）については変わりありませんので、ご注意ください。

◎予防接種による健康被害救済制度

この予防接種による万が一の健康被害発生時には、予防接種法による給付を受けることができます。

生後2カ月からの接種スケジュールについて（例）

	ロタウイルス	肺炎球菌	B型肝炎	五種混合	BCG	MR	水痘
接種回数	2または3回	4回	3回	4回	1回	2回	2回
2カ月	①	①	①	①			
3カ月	②	②	②	②			
4カ月	(③)	③		③			
5カ月					↑		
6カ月					①		
7カ月			③		↓		
8カ月							
...							
11カ月							
12カ月		↑				①	↑
13カ月		④					①
14カ月		↓					↓
15カ月							
16カ月				↑			
17カ月				④			
...				↓			②
22カ月							
備考	ワクチンの種類によって接種回数が異なる	開始する年齢によって接種回数が異なる	定期接種は、1歳誕生日の前日まで		定期接種は、1歳誕生日の前日まで	2回目(2期)は、年長児のとき	2回目は、1回目接種後3か月以上あける

この予防接種は防衛省からの交付金を使って実施しています。